

## 第4回福島問題予備研究会議事録

松井

日時 4月6日(金) 15:00-17:30

場所 化学工学会 会議室

出席者 横堀、小林、鈴木、郷、中尾、戸井田、橋本、松井 (順不同)

## .議事内容

## (1) 第80回化学工学会年会シンポジウム (小林、中尾)

3/20 が開催され、長谷部委員長(京大)、原子力学会(井上、電中研)、土木学会(丸山、長岡技科大)、地盤学会(小峯、早稲田大)、国立環境研究所(大迫)の発表があった。化学工学会の動きはいまさらという感じもするが、学協会間の連携をもつことはうけいれられた。

## 第5回の福島問題委員会の決定事項

- 1) 学協会間連携推進のために、若手の先生に委員にくわえ、推進を依頼する。
- 2) 中間の委員会のまとめを行う。(各委員に案を出してもらいまとめる)。
- 3) 福島第一原発の見学を東電・廃炉カンパニー依頼し、実施する。

## (2)情報交換

戸井田氏：ROによる淡水化は冷却水に、濃縮水はALPS経由で処理する。トリチウム研究会の資料を入手したが非常に有効である。

橋本氏：アレバの装置(2011年9月に停止)、サリー吸着塔(セシウム除去)の実態報告。サリーは破か時間が短く、かなりの頻度で交換している。NDFの沼田氏と面談し実態をヒアリングする。(後日4/16面談予約した。)

郷氏：ALPSに利用されている吸着の勉強会をしてはどうでしょうか。

鈴木氏：既存データを集めた汚染水関連機器における腐食リストに関する調査報告書を腐食防食学会として日本原子力研究開発機構に27年1月に提出した。

横堀氏：原子力学会や技術士会の活動に参加している。SCE-Net公開講座に参画している。

中尾氏：IRIDの公募に対して、ペルメック電極社より「アルカリ水電界方式による汚染水処理」の提案があったが不採用。

## (3) 全体討議

オフサイト除染：2000-3000万袋をどのように移動するか、システム設計が重要。

今後ALPSの勉強会を1-2回開催してはいかがだろうか。何がネックになってうまく処理できていないのか。次回、研究会として橋本氏の資料をレビューする。

以上